学校番号	３２０

令和３年度　理科

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「改訂　新編物理基礎」（東京書籍）						
副教材等	「改訂レッツトライノート物理基礎 Vol.0 数学編」（東京書籍） 「改訂レッツトライノート物理基礎 Vol.1 力学編」（東京書籍） 「改訂レッツトライノート物理基礎 Vol.2 熱・波・電磁気編」（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

積極的に授業に取り組むこと。

２　学習の到達目標

物理基礎で扱う物理現象に対して、正しい理解を持ち、その確認を効率的に実行できる。また、その理解を分かりやすく伝えることが出来る。さらに、より広く深い理解を得ようとしている。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・授業のどの部分が大事かを確認できている。 ・授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。	・授業中の発問に関して、適切な答えを述べられている。 ・分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。	・実験を手早く済ませることが出来る。 ・実験器具を正しく使うことが出来る。	・学習した内容を正しく覚えられている。 ・公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。
評価方法	・授業態度 ・アンケート	・発問	・机間巡視 ・レポート	・テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期中間	力学	速度 加速度 落体の運動	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○	a:速度や加速度のどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b:速度や加速度などの発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 c:落体の運動の実験を手早く済ませることが出来る。実験器具を正しく使うことが出来る。 d:速度や加速度などの内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・机間巡視 ・レポート ・テスト
1学期期末	力学	力とそのはたらき 力のつり合い 運動の法則 摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○ ○	a:力や運動方程式などのどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b:力や運動方程式などの発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 c:運動方程式の実験を手早く済ませることが出来る。実験器具を正しく使うことが出来る。 d:力や運動方程式などの内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・机間巡視 ・レポート ・テスト

2学期中間	力学	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	a:仕事やエネルギーなどのどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b:仕事やエネルギーなどの発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 d:仕事やエネルギーなどの内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・テスト
2学期期末	熱	熱と熱量 熱と物質の状態 熱と仕事 不可逆変化と熱機関	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○	a:熱量や熱機関などのどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b:熱量や熱機関の発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 c:比熱の実験を手早く済ませることが出来る。実験器具を正しく使うことが出来る。 d:熱量や熱機関などの内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・机間巡視 ・レポート ・テスト
3学期	波動	波と媒質の運動 波の伝わり方 音の性質 発音対の振動と共振・共鳴	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○	a:波のどの部分が大事かを確認できている。授業の内容について、より広く、深く知りたいという意識がある。 b:波の発問に関して、適切な答えを述べられている。分かりやすい方法で自分の考え方を伝えられている。 c:共鳴の実験を手早く済ませることが出来る。実験器具を正しく使うことが出来る。 d:波の内容を正しく覚えられている。公式や法則を現象に合わせて使うことが出来る。	・授業態度 ・アンケート ・発問 ・机間巡視 ・レポート ・テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。